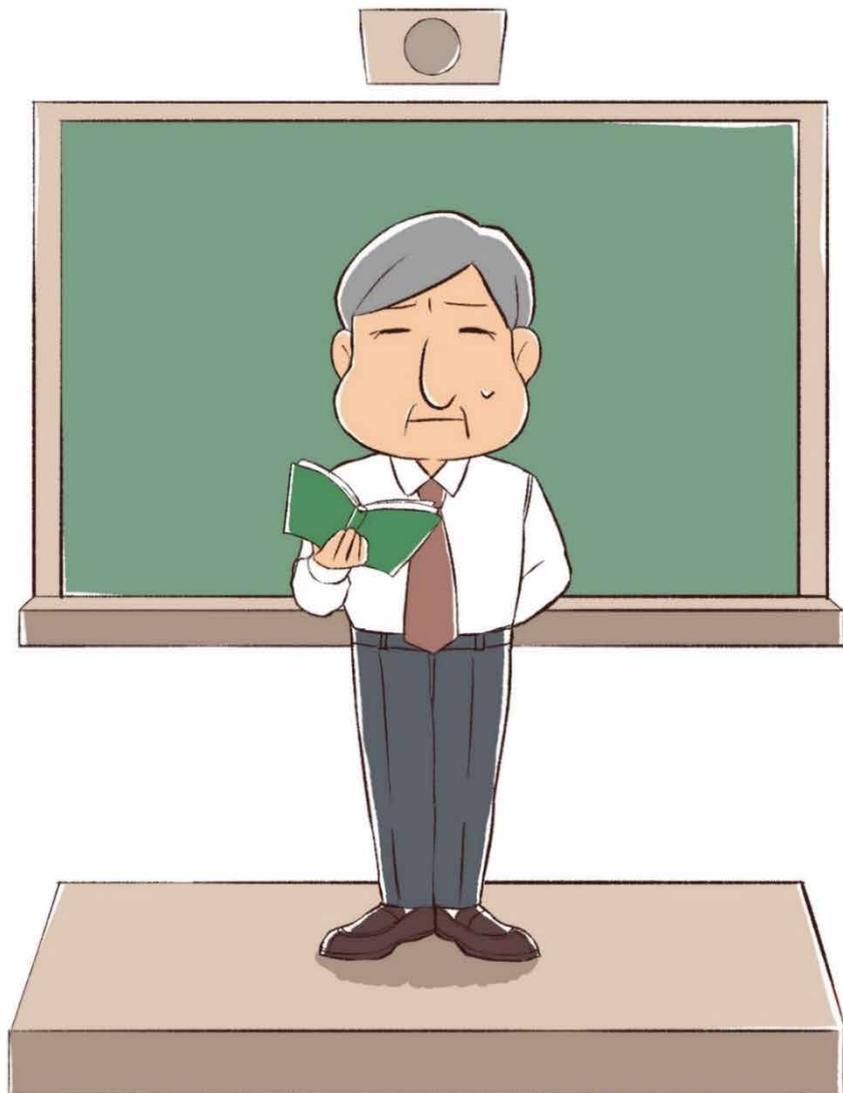


教職員の皆さん！ こんな学生いませんか？

—学生の多様性を理解するためのハンドブック—



はじめに

2016年に「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」が施行され、障害のある学生への合理的配慮を提供することが義務付けられました。日本学生支援機構の調査では大学生のおよそ100人に1人に障害があることが明らかになっています（2018年度）。それに加え、障害以外にも、さまざまな背景から学生生活に困り感を抱いている学生もいます。大学で働く教職員の皆さんは1日に何人もの学生と接する機会があるはずですが、しかし実際、日常の中で障害学生や、困り感を抱えた学生の存在を感じることはどれだけあるのでしょうか。“障害”“困り感を抱えている”と言われても、具体的なイメージが浮かばないかもしれません。

障害特性やその人の背景によって学生の困りごとはさまざまです。中には、外見上、一見ただけでは分かりにくく、自分自身の困りごとを分かってもらえない、誤解を受けてしまう、という学生もいます。

本書の目的は、多様な学生について教職員の皆さんが理解する一助となることです。本書で取り上げた事例は全ての学生に当てはまるわけではありませんが、学生の多様さについて、教職員の皆さんが想像するきっかけとなればと考えています。

合理的配慮とは…

障害（慢性疾患、難病を含む）の有無に関わらず、一人ひとりが均等に社会参加の機会を得る（機会均等の）ために、個々人に合わせた変更や調整を提供することです。例えば、車いすを使用している学生が受講する授業の教室が、階段を使わなければ行くことができない場所だったとします。この場合、当初使用する予定だった教室から、車いすでもアクセス可能な教室に変更することが、合理的配慮にあたります。この時ポイントとなるのは、合理的配慮は、当事者との「建設的対話」を行った上で、「過重な負担」ではない範囲で行われなければならないということです。

本書は、九州大学障害者支援ピア・サポーター学生が中心となり作成しました。

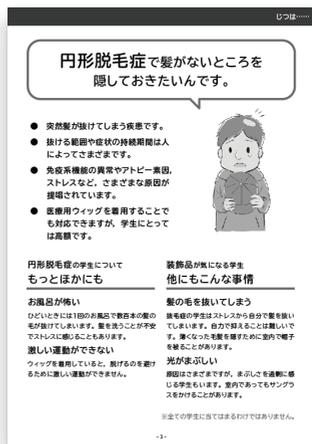
ピア・サポーターとは？ 大学から委嘱を受け、「本学のアクセシビリティ向上のための啓発、広報及び障害者に対する支援」を行う学生のことで。九州大学を、誰もが過ごしやすい、使いやすい大学にするために、さまざまな支援・啓発の活動を行っています。

本書の構成と読み方

本書では教職員から見た学生の姿と、学生側の事情を分けて掲載しています。



教職員から見た学生の姿



学生側の事情

もくじ

本書の構成と読み方.....	1
こんな学生いませんか?	
授業中に帽子をかぶっている.....	2
提出書類に不備がある.....	4
授業中何度も外に出る.....	6
作成した資料の色づかいが奇抜.....	8
授業中飴をなめている.....	10
おわりに.....	12

※本書は一例であり、全ての学生にあてはまるものではありません。

本書にあるような行動をとっている学生がいたとしても、背景にある事情は本書に掲載していないものである場合もあります。大切なのは、興味をもつことです。

授業中に帽子をかぶっている



「室内なのに、おしゃれのつもり？」

大学生だから服装は自由だけど、
室内なんだから帽子くらい取ればいいのに。

円形脱毛症で髪がないところを 隠しておきたいんです。

- 突然髪が抜けてしまう疾患です。
- 抜ける範囲や症状の持続期間は人によってさまざまです。
- 免疫系機能の異常やアトピー素因、ストレスなど、さまざまな原因が提唱されています。
- 医療用ウィッグを着用することでも対応できますが、学生にとっては高額です。



円形脱毛症の学生について もっとほかにも

お風呂が怖い

ひどいときには1回のお風呂で数百本の髪の毛が抜けてしまいます。髪を洗うことが不安でストレスに感じることもあります。

激しい運動ができない

ウィッグを着用していると、脱げるのを避けるために激しい運動ができません。

装飾品が気になる学生 他にもこんな事情

髪の毛を抜いてしまう

抜毛症の学生はストレスから自分で髪を抜いてしまいます。自力で抑えることは難しいです。薄くなった毛髪を隠すために室内で帽子を被ることがあります。

光がまぶしい

原因はさまざまですが、まぶしさを過剰に感じる学生もいます。室内であってもサングラスをかけることがあります。

※全ての学生に当てはまるわけではありません。

提出書類に不備がある

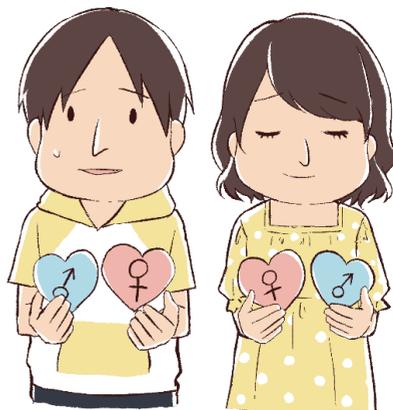


「丸つけるだけなのに、そのくらいきちんとやって！」

提出書類、丸をつければいいだけの項目で不備！
確認したら嫌そうな顔されたし、うっかりミスでも
ごめんなさいって明るく謝ってくればいいのに。

トランスジェンダーで この2つでは答えられないんです。

- 一般的に身体的な性と心の性が一致しない人をいいます。
- 性自認のあり方は多様です。性別に対する意識が男女どちらでもないと感じる人（中性・無性・両性）もいます。
- 性的指向とは区別して考えます。
- 全てのトランスジェンダーが性転換を望むわけではありません。



性的に多様な学生について もっとほかにも

ジェンダーフリーの場所が少ない

男女では選べないため、トイレや更衣室等でどちらかしか選べない場合は困ってしまいます。

性別によって異なる呼称に違和感がある

「〇〇くん」や「〇〇ちゃん」といった性別によって異なる呼称に違和感があり、抵抗を感じる人もいます。

書類の不備が気になる学生 他にもこんな事情

回答したくない

出身地を明かしたくない学生がいます。国籍や出身地による差別を受けることを恐れている、家庭の事情で誰かに居場所を知られることを避けている等、さまざまな事情が考えられます。

質問項目を見落とす

発達障害（ADHD）の学生は、不注意のため、質問項目を見落としてしまうことがあります。

※全ての学生に当てはまるわけではありません。

授業中何度も外に出る

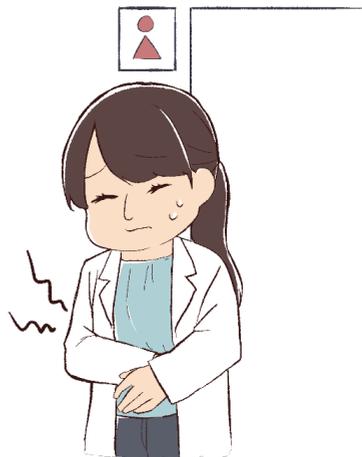


「ちょっとちょっと！説明聞いてよ！」

重要なところは聞き逃してほしくないのに。
毎回毎回外に出るのはなぜだろう？
やる気がないのかな？

過敏性腸症候群で おなかを壊しやすいんです。

- お腹の痛みや不快感、下痢や便秘の症状が続く病気です。
- 心理的に負担がかかると症状が悪化することがあります。
- 腹痛におびえるうちに緊張や不安が増し、悪循環に陥ることもあります。



過敏性腸症候群の学生について もっとほかにも

式典やテストが苦手

長時間外に出られない環境が苦手です。退席しにくい状況で、人よりも緊張してしまい、症状が出ることもあります。

遅刻をする

電車の中で、突然トイレに行きたくなるなど、突発的な症状のため、遅刻してしまうことがあります。

退席が気になる学生 他にもこんな事情

姿勢を変える

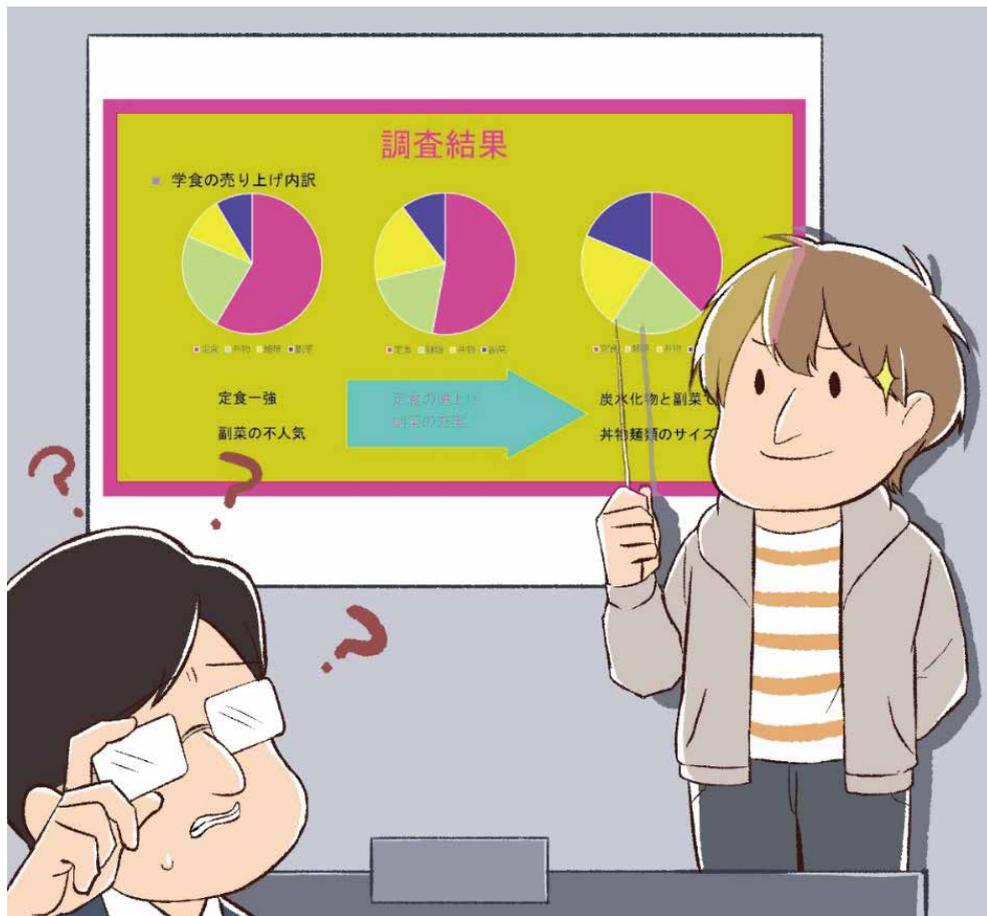
関節リウマチなど、同じ姿勢を長時間継続するのが困難な学生もいます。歩きまわったり、寝転んだりしてこまめに姿勢をかえる必要があります。

急な腹痛が起こる

難病(クローン病、潰瘍性大腸炎など)で腹痛、下痢などに悩む学生もいます。症状が重い場合には、入院することもあります。

※全ての学生に当てはまるわけではありません。

作成した資料の色づかいが奇抜

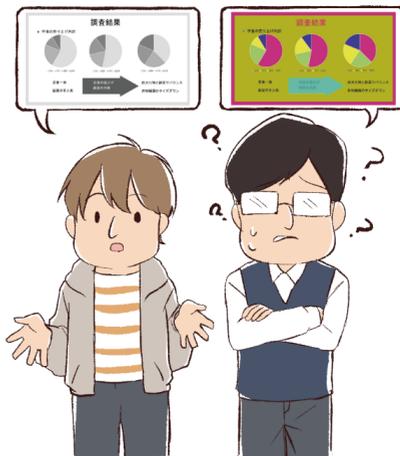


「え、なんでそんな色づかいなの？」

学生にパワーポイントを作る課題を出してみただけれど、
どうしてあの子はあんなに分かりにくい色づかいをしているんだろう？
レポートは優秀なのになぜ？奇抜さを狙っている？個性？

色覚の特性のため、 通常の色づかいが分かりにくいんです。

- 色の見え方や感じ方が多くの人とは異なる状態です。
- 色を明暗でしか感じられない、赤系と緑系の区別がつきにくいなど、見え方はさまざまです。
- 日本人男性の20人に1人の割合で色覚異常があるとされており、珍しいことではありません。
- 視力には問題がない場合もあります。



色覚に特性のある学生について もっとほかにも

図を読み取りにくい

色のみで区別された情報を読み取ることが難しいため、路線図やグラフを正確に読み取れないことがあります。

服が選びにくい

服の色が分かりにくく、奇抜に見える色合いの服装をすることがあります。

天気が分かりにくい

晴れているのか、曇っているのか空の色から判断することが難しいことがあります。

資料の作り方が気になる学生 他にもこんな事情

情報をまとめることが苦手

発達障害の学生の中には、情報を分かりやすくまとめる作業が苦手な学生もいます。文章を作成することは出来ても、図や箇条書きにしまとめることが苦手なことがあります。

※全ての学生に当てはまるわけではありません。

授業中飴をなめている



「授業中におやつ？休み時間まで我慢できないの？」

大人数の教室でこっそり、ならまだ見逃してあげるけど、目立つところで堂々と食べるなんて、節度がないんじゃない？

I 型糖尿病 (インスリン依存型糖尿病) の人は 血糖値のコントロールが難しいため、 飴などを食べることで低血糖を防いでいます。

- 膵臓のインスリンを出す細胞が自己免疫によって破壊され、注射や薬等によって血糖値をコントロールしなければならなくなる病気です。
- 生活習慣病のII型糖尿病とは異なり、原因は不明です。
- 太っていても痩せていても発症します。
- 血糖値が下がった場合には、飴などで糖분을補給する必要があります。低血糖の状態では、頭痛・手足の震え・動悸といった症状が起こり、重症になると意識を失うこともあります。



慢性疾患や難病に 罹患している学生について もっとほかにも

顔がむくむ

投薬の副作用で顔がむくんでしまうことがあります。そのため、実際より太ってみられることや、元気がない時でも顔にハリがあって元氣そうと思われてしまうことがあります。

長期間休む

検査入院等のため、定期的に長期間休む場合があります。

授業中の飲食が気になる学生 他にもこんな事情

服薬の副作用がある

継続的な服薬が必要な病気（統合失調症、バセドウ病など）に罹患している学生は、その副作用でのどの渇きが抑えられず、たとえ実験や試験中でも、水分が必要になる場合があります。



ヘルプマーク

援助や配慮を必要としていることが外見から分からなくても、援助を受けやすいように周りに配慮が必要なることを知らせるマーク（参考：東京都福祉保健局）。

※全ての学生に当てはまるわけではありません。

そんなこと言われたって!!

全ては把握できないし、全員を気にかけるのは難しいです……



ここまでいくつかの場面を紹介してきましたが、これらはほんの一例にすぎません。ほかにもさまざまな背景を持ち、困難を感じている学生は多くいます。

しかし、大学の教職員の皆さんが対応しなくてはならない学生数は非常に多く、全ての学生の事情を把握することは困難かと思えます。

それに加えて、困難を抱えている学生の中には大学に支援を依頼していない場合も多いという現状があります。

では、なぜ多くの学生が支援を依頼していないのでしょうか。

自分にとって必要な支援を依頼するには、自身が抱える困難について理解すること、適切な手順を踏んで支援を要請する力などが求められます。大学生になり親元を離れるなどの環境の変化から困難が出てくる場合もあり、学生自身も把握しきれていないことがあります。

支援を依頼しない理由としては、以下のようなことも考えられます。

① 申し訳ない

「こんなこと頼んだら迷惑かな」
「みんなは1人で出来ているのに」私だけ助けてもらっていいのだろうか」

② 知られたくない

「支援されていたら自分の事情が知られてしまう」
「みんなと違うと思われたくない」

③ 分からない

「誰に頼ればいいか分からない」
「何を支援されたらいいか分からない」

大切なのは興味をもつこと 相談してください “気になる学生” のこと

九州大学には“気になる学生”について相談できる窓口があります。その学生はどのような行動をとっているのか、そして、どのように対応したらよいのかといった具体的な情報や、専門機関・支援機関に関する情報を得ることができます。困っていないように見えても困っている学生、自分が困っていることにすら気が付いていない学生、いろんな学生がいます。1人で悩まず、相談してください。



総合相談窓口

キャンパスライフ・健康支援センター
コーディネーター室（ビッグさんど2階）

電話 092-802-5881

メール kucr@chc.kyushu-u.ac.jp

H P <http://www.chc.kyushu-u.ac.jp/~webpage/organization/coordinator.html>

合理的配慮に関する相談窓口

キャンパスライフ・健康支援センター
インクルージョン支援推進室（センター1号館1階）

電話 092-802-5859

メール inclusion@chc.kyushu-u.ac.jp

H P <http://www.chc.kyushu-u.ac.jp/~webpage/organization/barrierfree.html>

企画・制作 九州大学障害者支援ピア・サポーター学生
イラスト 中尾 美結

